

平成27年度 みやざき地域志向教育研究経費 概要

所属部局等	代表者
農学部	亀井 一郎
対象となる領域	地域志向教育研究経費区分
地域志向研究領域	地域課題解決型
プロジェクト名又は研究名	
チャレンジ・五ヶ瀬町 ～豊かな食資源を生かして～	

概要説明

①プロジェクト又は研究の必要性及び目的

【必要性】

宮崎県の約9割を占めている中山間地域は、豊かな自然や伝統文化など貴重な地域資源を有するとともに、県民の約4割が暮らす生活の場でもある(平成23年度宮崎県中山間地域振興計画より)。しかしながら、人口減少や高齢化の急速な進行等、中山間地域を取り巻く環境は厳しさを増しており、基幹産業である農林水産業の衰退や人口の流出、集落機能の低下といった多くの課題が山積している。五ヶ瀬町も例外では無く、1970年には7,104人であった人口が、2010年には4,427人まで減少している。他の中山間地域と同様、人口の減少に伴い産業が衰退し雇用が失われることから新たな人口の流出が加速し、地域の活力が失われつつある。しかしながら、前述のように中山間地域は豊かな自然をはじめとして、ヒト、食、伝統、観光等多岐に渡る資源を有している。これらの豊富な資源を生かしつつ「五ヶ瀬ならではの」という視点からの地域振興に関する取り組みは急務である。豊富な資源の中でも、特に、別紙4にあるように、五ヶ瀬町においては「五ヶ瀬町における特徴ある“食品”の振興に関する研究」の推進が強く望まれており、取り組む必要性の高い研究である。

【目的】

上述の五ヶ瀬町の現状を鑑み、本研究では、五ヶ瀬町における特徴ある“食品”として“食用キノコ”及び“薬用植物”に着目し、新たな食品の開発を推進することを目的とする。具体的には、五ヶ瀬町に生息する食用キノコを発掘、栽培化へと繋げ、地域ブランドを構築するとともに付随する加工品の開発等にも取り組む。同様に、豊かな森林資源を抱える五ヶ瀬町に特徴的な薬用植物に着目し、機能性について解析する。解析結果は、平成27年度より開始された新制度である「機能性表示食品制度」を活用し、機能性を付した五ヶ瀬町ならではの新たな高付加価値食品を開発する。これらの研究を推進することで、将来的には開発した食用キノコ及び薬用植物研究成果を基軸として、新産業創出、雇用創出、観光振興等を推進し、地域活性化に貢献することを目的とする。